

Kodak
LICENSED PRODUCT

© The Tiffen Company, 2000

KODAK Color Control Patches

Centimetres

Blue 1 2 3 4 5 6 8 9 10 11 12 13 14 15 17 18 19
Cyan 2 3 4 5 6 8 9 10 11 12 13 14 15 17 18 19
Green 4 5 6 8 9 10 11 12 13 14 15 17 18 19
Yellow 8 9 10 11 12 13 14 15 17 18 19
Red 9 10 11 12 13 14 15 17 18 19
Magenta 11 12 13 14 15 17 18 19
White 13 14 15 17 18 19
3/Color 17 18 19
Black 18 19

和漢朗詠集零本

1357
利7



利
1.257
卷



二年 如不與新長...

不短 大... 應... 長...

無... 斷... 長...

部... 不... 會... 長...

制... 山... 如... 下...

部... 長... 如... 女...

部... 長... 如... 女...



王昭君 妓女 遊女 老人 交友

懷舊 迷懷 共賀 祝 戀 無

白 佛 復 山寺に攻有く

風

春風暗剪庭前樹 夜雨偷穿石上苔
入 愁 易 亂 歌 惱 明 君 魂

流水不飯 應送列子 乘

漢主手中吹不駐 徐君塚上扇猶懸

二二二

班姬裁衣應誇尚 列子懸車不往還

秋 札 此 吹 一 行 家 未 已 一 一 一 一

と 然 の 美 ぶ る の お と の 一 一 一 一

か の 一 一 一 一 此 月 の 月 け 一

り 一 一 一 一 あ り 一 一 一 一 一 一 一 一

雲

亦 班 湘 浦 雲 疑 鼓 瑟 之 蹤 風 去 夫 其 月 亦
吹 簫 之 地

遠雲埋行客 張去馬 風破旅人屐
盡日望雲心 不繫有詩見 月夜方閑
溪皓避秦也 朝望嶽孤峯 之月陶朱緝
之莫眼混五湖也 煙

暫借崎嶇非戴石 空偷峻嶮豈生松
溪帝龍顏迷處 可准王鷄翅 夫留連

よみぬのこころを みるんうけまの
ゆるまのりられ みるのこころ

晴

煙消門外青山近 露重窓前綠傘低
紫蓋也嶺岌踈雲収 七百里也外曝布之
泉波冷月澄 四十尺也餘

雲消碧浪天 膚解風動清漪水面皺
雙鶴出翠披霧舞 孤帆連水与雲消
飯嵩鶴舞日高見 飲澗龍昇雲不殘
五原之流みりりれのけん

あつらふ心はなほなほ

曉

佳人尺錦於晨粧魏宮鐘動遊子猶行於
殘月函谷鷄鳴

幾行南去也鷹一片西傾也月赴酒路而

獨行子旅店猶宿孤城百戰也師胡笳

未歇嚴粧金屋之中為蛾心各罷宴瓊造

之上紅燭空餘

五劫宮漏初明後一點忘燈歌風好

あつらふ心はなほなほ

あつらふ心はなほなほ

松

但有雙松當砌下更无一隻到心中

青山有雪諳松性白石落空雲橫心

千丈凌雪應思結廬也夜女

百步亂瓦誰破養由也射

九夏三伏之暑月 介含錯午也風

玄冬素雪也寒朝志顯君子之德

十八公采霜後露 千雪色雪中深

含而嶺松天更霽 燒秋林葉大還青

もくたのさうもくひりたみりりまうくれの

いまうーかひりりまうまうりりりり

我んそーいひさーくならぬすーいり

きーのひりりりりりりりりりりりり

あまうるるるるるるるるるるるる

おののひりりりりりりりりりりりり

介

烟葉蒙籠侵夜色 風枝葉飒歌秋楚

阮籍嘯場人 家月子 猷看處鳥栖煙

晋騎兵冬軍王十猷 裁補竹君

唐太子賓客白樂天 妻為名友

進笋未抽鳴鳳管 盤根綴點卧龍文

世みふれのこりもさひまの
うきあはれいづれもさる
けぬまうあいのよもいづれも
たしよこえぬいづれも

草

沓頭雨深班と草水面風並
西施顔色今何在應有春凡百草頭
瓢箪集定草滋顔潤也卷

藜藿深鑽雨湿原憲之樞

草色雪晴初布護鳥考露暖漸綿壘
七の有馬蹄猶露傳野元人路漸濼

秋のそらうらさふのこもあはれ
ありはれこもさる
あはれあはれ
こもさる
あはれあはれ
あはれあはれ

鶴

嫌少人而蹈高位鶴有棄軒

惠利口而覆邦家雀能穿屋

同李陵也入胡但見異類

初屈原之在楚衆人皆醉

聲來枕上千年鶴影落盆中五老峯

清暖教劫去下鶴老老一點亦同燈

雙舞庭前苑苑處教老池上月明時

鶴歸舊里下今成之詞可杜

龍通新儀陶女公之駕左眼

飢黠性躁忘乳老鶴心閑緩眼

謝玄暉敬亭山歌云獨鶴方朝唳飢黠

夜啼叫送遙教駕孤枕爰和氏漫入五絃彈

月此一十三不みらるる

あゝ道成河さくあゝるたさく

お何そさくさくあゝるたさく

あゝるたさくあゝるたさく

初きりせつけいの浦よるるを
たのりりり井よるるを

猿

猿臺霜満つ夢之玄鶴暖天巴峽秋深五
夜之哀猿叫月

江夜巴峽初成字猿過平陽始漸腸
三夢猿後岳那後一葉舟中載病身

胡笳一青秋破高客之爰巴猿三叫曉露

行人之裳

人煙一穗秋村僻猿叫三聲曉峽深

曉峽夢深猿一叫言林也落多先啼

谷靜纒函山鳥詔梯危斜踏峽猿聲

らきりいあるるふそあひの

むらりむらりむらりむらりむらり

むらりむらりむらりむらりむらり

むらりむらりむらりむらりむらり

管絃 付舞收

一考風管秋驚奏嶺之雲數拍霞當曉送
假山之月

第一才二絃索之秋風拂去疎韻淡

第三才四絃冷之夜鶴憶子籠中鳴

第五絃考之掩抑瀧水凍咽流不得

隨之管絃還自是寺閑篇詠被人知

願念燈下裁衣婦誤剪同心一兵也

羅綺之為重衣妬无情於機婦

管絃之在長曲怒未闕於伶人

落枝曲舊會吹雪折柳趁新角拍墮

榻如昔桃文君得莫仗兼中子細聽

照之れきりきる代松せりり

いほののほりり馬へそめりり

文詞

沉詞拂悅若遊真銜釣出深淵之底浮藻

聯翩若翰鳥纏繳蓬曾雲之峻

遺文三十軸金玉考

龍河原上土埋骨不埋名

言語巧偷鸚鵡舌文章分得凡凡毛

錦帳曉開雲母殿白珠秋寫水精盤

昨日公中之木材取於己今日庭前之

詞慙於人

王朗八葉之孫極雅崖事之舊草江淹一

時之女集范別駕之遺文

陳孔璋詞空愈病寫相如賦只凌雲

贈壽新恩銘刻石獲麟後集世知此

人

酒

新豐酒色清

長桌款款出咽於凡凡管之裏

於鸚鵡不盡之中

晋建威将军刘伯伦嗜酒作酒德颂以传
於世唐太子宾客白居易天亦嗜酒作酒功
贗心經之

臨風抄秋樹對酒長年人醉白如雲為雖
紅不是春

生村抱耒詩是業家園忘却酒為非
茶能散悶為功淺蓋道忘愁得力微

若使采期兼解醉應言四葉不言三

醉鄉氏之國四時獨誇溫知之天酒泉那

之民一項未知江後之地
菓則上林苑之所獻會自消酒是下春村

之不傳頌甚美

先逢阮籍為鄉道漸乾利伶同士凡
王勣瑞霞紫浪脆愁康山宮逐流苑

立ののう地くそすれきりほきり

いんやいそいそいそいそいそいそい

みりたりのありこののむすまゝさるる
うひひるゝらるるまればあけあめ

山

黛色迥臨蒼海上泉菴遙漾白雲中

勝地本来無定主大都山屬夢山人

夜鶴眠鷺松月若曉鶻荒落峽烟市

絢扇抛未盡黛露羅維卷却翠屏明

衆籟曉魚林頂走郡源莫叩谷心名

名のこしそられみこりなりなり

あそ日ゆ日ゆいととよとよ

あや井まふううれまうらまひ

あかこれういのあはりりつ

あそくせの杉あそくきうれら

いくせはりまの言あうらうら

山水

泰山不讓土壤故能成其高河決不戢細

流故能成其深
巴猿一叫停舟於明月峽之邊胡馬忽嘶

失路於黃沙積之裏
礙日暮山青蒨
漫天秋水白茫

漢舟火氣宅燒浪
澤路鈴耆夜色
山
山似屏
武江似潭

岵能來待月明中
草木枝疎春風梳
為祇之
髮魚黿遊戲秋

水子河泊之民
水子河泊之民

韓康秋社之樓
華藻如舊
范蠡扁舟之泊

如波惟新

山復山何工削成
青巖之形
水慢水誰家

深出碧潭之色

山邨遠村雲閉
度溪岸孤村日霽晴

山成向背
斜陽裏
水似回流
連瀨間

神多
ん
あ
ま
ら
し
り
あ
ま
る
と
く
く
は
ん

あ
ま
ら
し
り
あ
ま
る
と
く
く
は
ん

あ
ま
ら
し
り
あ
ま
る
と
く
く
は
ん

あ
ま
ら
し
り
あ
ま
る
と
く
く
は
ん

あ
ま
ら
し
り
あ
ま
る
と
く
く
は
ん

水

付要文

邊城之牧馬連嘶平沙眇行旅之征帆

及去遠岸蒼蒼

洲香杜若抽心長沙暖死香鋪翅眠

帆開青草湖中去衣濕黃梅雨裡行

水驛殘穿見店月也船棹入女湖春

菰芦杪馭春濃酒醉艫舟流夜漲灘

閑居屬於誰人笠宸殿之本主也

秋水見於何處朱萑院之新家也

垂釣者不得魚暗思浮遊之有意

移棹者唯河亭遙感旅宿之隨詩

沙頭刻印鷗遊處水面摸書鴈度時

日脚波平孤嶼莫貳頭岸遠客帆

いづれをて死の即死をるるあり

らりりりりりりりりりりりり

いづれこのまことやけいれんや

やういすめふらりしにぬる入

禁中

風池後面新秋月龍淵前頭薄暮

秋月高懸空碧外仙郎靜翫禁園間

三千仙人誰得駐含元殿角管絃者

鷄人曉唱妙教の王の眠息鐘教鳴響徹

暗天之聽

朝儀日高冠額夜行所履妙忙

見ふとりそのもくいみあつて

とれいとうりききうらみしとたけ

うらふふいりきけし林の原

あふれうらみあひしる

故京

緑草如今塵度荒紅七足昔管絃家

いふれ神あうまこえしと事かき

しりあうしちあはれ

何事やまがれみやこのおきり
ひらききりきりきりきり

故官 付故宅

陰去古柳疎櫻春元春色獲落危墉壞宇

秋有秋聲

臺傾滑石於殘砌簾新真珠不滿釣

強吳滅号有荆棘始獲臺之露灑暴秦

襄号无虎狼感陽宮之煙片

老鶴返来仙洞駕宅雲在昔妓綫衣

孤七色衣露啼殘粉莫鳥栖凡身廢離

荒雞見露秋菊泣深洞汎瓜老枿悲

向晚簾頭生白露終宵床底見青天

云心下くしてあはれゆかぬものいさよ

月影りまらりゆかぬものいさよ

そらまきりてゆかぬものいさよ

うらまきりてゆかぬものいさよ

いみじくも... (faded handwritten text)

仙家 付道士隠倫

壺中天地乾坤外，夢裏身名且等閒。
藥炒有火丹應服，**服**雲確允人水自春。
山底採巖雲不賦，洞中栽樹鶴先知。
三壺雲浮七百里，**之**程多浪五城霞峙十。
二樓之梅映天。

奇大吹也考流於紅志之浦，**驚**馬瓜振葉香。
分於望桂之林。

誤入仙家，雖為半日之客，恐歸舊里，**纒**逢七世之孫。

高山月落秋髮白，**穎**水浪揚石耳流。
丹竈道成仙室靜，山中景色月苑低。
石床留洞氣可拂，玉案拖林多**独**啼。
荒草不言春幾暮，**凋**殘无跡昔誰**栖**。

玉喬一去雲長斷早晚笙聲故溪
虛澗有琴聲獨咽故山无注晚雲孤
通夢夜深夢洞月尋蹤春莫柳汀塵
ぬまこころふすらみちをさきくはるかのふるふ
いりてり我のふ代をとるぬあらしん

山家

遺愛寺鐘敲松香炉峯雪撥兼看艇
南省也晴錦帳下房山雨夜草菴中

漢父晚船分浦釣牧童寒笛倚牛吹
王尚書也連存麗則麗恨唯有紅顏之賓
篋中散也介林出則出嫌殆北溱倫之士
南望玉則有閑路之長沂人征馬駱驛於翠
簾之下
東顧亦有林塘之妙紫鷺白鷗逍遙於未
檻之前
山點日暮滿耳者樵歌牧笛之者澗戶鳥

飯^シ度^シ眼^ミ者^ハ弁^シ煙^ニ去^リ霧^ノ之^ノ色^シ
七^ノ河^ノ負^ヒ友^ノ家^ノ交^ヒ語^リ河^ノ裏^ニ好^シ象^ノ鶴^ノ卜^シ隣^ニ
晴^シ後^ニ鳥^ノ山^ノ臨^ミ彌^ト近^ク而^{シテ}初^メ白^ク水^ノ入^リ河^ノ流^ル
觸^レ石^ニ春^ニ雲^ノ生^ル枕^上上^ニ衛^ノ峯^ノ曉^ニ月^ノ出^ル窓^ノ中^ニ
ら^ノ里^ノの^ノもの^ノら^ノひ^ノき^ノこ^ノし^ノと^ノあ^ノま^ノ
世^ノの^ノう^ノま^ノ代^ノり^ノの^ノう^ノま^ノう^ノり^ノの^ノう^ノま^ノう^ノり^ノの^ノう^ノま^ノう^ノり^ノ
ら^ノの^ノう^ノま^ノう^ノり^ノの^ノう^ノま^ノう^ノり^ノの^ノう^ノま^ノう^ノり^ノの^ノう^ノま^ノう^ノり^ノ
く^ノう^ノま^ノう^ノり^ノの^ノう^ノま^ノう^ノり^ノの^ノう^ノま^ノう^ノり^ノの^ノう^ノま^ノう^ノり^ノの^ノう^ノま^ノう^ノり^ノ

田家

碧^ク毯^ニ線^ノ頭^ノ抽^キ早^ク稻^ヲ青^ク羅^ノ裙^ヲ帯^ヒ展^キ新^ノ蒲^ヲ
家^ノ守^リ一^ツ犬^ヲ迎^ヒ入^リ吠^キ放^シ野^ノ群^ノ牛^ヲ引^キ犢^ヲ休^ム
野^ノ酌^シ卯^ノ時^ニ桑^ノ葉^ノ露^ヲ以^テ畦^ノ甲^ニ日^ノ稻^ヲ菟^ノ凡^ク
葉^ノ索^ク村^ノ凡^ク吹^キ笛^ヲ処^ニ荒^ク原^ノ隣^ノ月^ノ擣^キ衣^ノ程^ニ
ま^ノう^ノま^ノう^ノり^ノの^ノう^ノま^ノう^ノり^ノの^ノう^ノま^ノう^ノり^ノの^ノう^ノま^ノう^ノり^ノの^ノう^ノま^ノう^ノり^ノ
花^ノ下^ノう^ノり^ノの^ノう^ノま^ノう^ノり^ノの^ノう^ノま^ノう^ノり^ノの^ノう^ノま^ノう^ノり^ノの^ノう^ノま^ノう^ノり^ノ
う^ノま^ノう^ノり^ノの^ノう^ノま^ノう^ノり^ノの^ノう^ノま^ノう^ノり^ノの^ノう^ノま^ノう^ノり^ノの^ノう^ノま^ノう^ノり^ノ

あめあいたたかきうららき
さきのよきとてさるる
いふるいふる
林のせのうら

隣家

明月好同三徑夜
緑楊宜作西家春
可獨終身數相見
子孫長作隔牆人
池邊別業是何人
聞道陸張昔
隣
落花波老
分岸
夢當
兼柳色
西家春

春烟迤邐蒼蒼色
曉浪潛分枕上春
うららき
うららき
うららき
うららき

山寺

千株松下雙峯寺
一葉舟中萬里身
更无俗物當人眼
但有泉聲洗我心
不改朝天之門
便作求車之所
不復
澗水
之橋
以為
到岸
之途

策馬未時只思風煙之可散逢伴談如漸
覺世俗之皆空

人如鳥路穿雲出地是龍門越水登

三千世眼手足十二回緣心裏空

泉苑雨洗者閑後萬色相秋

寺此何何何何何何何何何何何何何何

何何何何何何何何何何何何何何何何

何何何何何何何何何何何何何何何何

花...

佛事

月隱重山号擊扇喻之凡息大塵号動樹

教之願以今生世俗文字業狂言綺語也

誤認為當來世之讚佛乘也因將法悔也

緣

百千万劫菩提八十三年切極林

十方仏土之中以西方為望九品蓮臺之

問維下品應是

雖十惡者猶引其甚於疾爪披雲霧

雖一念者必感應喻之巨汝納縮露

昔切利天之安居九十日刻赤梅檀模尊

容今跋提河之賦度二千奎瑩紫磨金祀

兩足

浪洗破消鞭弁馬而不顧兩折易破國芥

鷄而長忘

念極系之尊一夜山月正圓先勾曲之舍

三朝洞也敬落

玉磬聲思管絃養衲衣伴代綺羅人

眼蓮豈艱清涼水面月長留十女天

以仙神通辛酌又經停祇劫敬朝宗

卍凍負未為谷月拂雲拾尺莫山雲

已終未習千年後初得難逢一系文

いんちん... (faint vertical text)

のりきりぬあせりあの津にけ家
こくらくのいふ心まきかたき
はじりえいふ好こりりりりり
何轉もぬこ頼ら喜托の佛いぬら
りりりりりりりりりりりりり
こせせせせせせせせせせせせ
きこりひくを地りりりりりり

僧

蒼茫霧雨之霽初歩汀路立重疊煙嵐之
断処晚寺僧故
野寺坊侍飯常月苦林携客醉眠也
堂有母儀莫以逗留於中天之月
室有師跡莫以偃息於五臺之雲
明鏡乍開隨境照白雲不着下土来
觀空淨侶心懸月送老高僧首剃霧
鶴閑翅刷千年高僧老眉岳八子雲

あはれなる心は
あはれなる心は
あはれなる心は
あはれなる心は
あはれなる心は
あはれなる心は
あはれなる心は
あはれなる心は
あはれなる心は
あはれなる心は

閑居

不獨記東都後道里有閑居泰適叟

亦令知皇道大和歲有理世安糸之音宮
車一去棧臺之十二長空際馬難追縹羅
之三千暗老

有月之詩

鶴籠閑處見君子書卷展詩逢故人
人間榮耀因緣淺林下幽閑氣味深
官途自此心長別世事從今口不言

蕙帶夢衣袖簪於北山之北南樓桂檝鼓
舫於東海之東

都府樓綬春瓦色觀音寺只聽鐘聲

晦跡未拖苔徑月避喧於卧介窓成

陶門臨絕春朝雨燕履色裏秋夜霜

三月危のひみりりたみみくくわきわみみりり

ほももるるたたくくととししららりりととせせりりままよよりり

眺望

風飄白浪也千尺雁點青天字一行カ

出紫闥而東望山岳半拂雲根之傍カ

踏翠嶺而西顧象跡悉沒烟樹之深カ

見天台山之高巖四十五尺浪白カ

望長安城之遠樹百千萬葉カ

江霞隔浦人煙遠湖水連天雁點遙カ

一行斜雁雲端風二月餘七野外苑カ

老眼易迷殘雨重春情難整夕向寺カ

見よくせの柳　さうりまをささぎせそ
さ　し　て　ま　り　に　し　ま　り　の　ま

餞別

与君後會知何處為我今朝又一盃
前途程遠馳思於雁山之暮雲後會期遙
露緜於鴻雁之曉渡

昔聚舟鳥競亦陰於十五年之間今迎盃
熊歌子手於三百盃之後

楊岐路滑我之送人多年事汀波高人之
送我何日

万里东来何再日一廿西望是長襟
九枝灯火唯期曉つ景舟苑不待秋
敬以浮生期後會還悲石火向瓦敲
おしひるりうらりうらりいささか

たよる色あつらん　うらりのまろ　あま
うらりうらりうらりうらりうらり

くろしきくろしきくろしき
いのらふふいふふいふふいふ
あふりうしこののあふりうし

行旅

孤館宿時風帶雨遠帆歸処水連う
行重行明月峽也曉色不暎
暎入長春也洞巖泉咽号嶺猿吟夜宿極

浦之波勢氣吹号皓月冷

渡口郵船風定出波頭滴處日晴看
洲芦夜雨他鄉溪岸柳社風遠客情
蒼波踏遠雲千里白霧山深鳥一考

かのくろしきくろしきくろしき
あふりうしこののあふりうし
あふりうしこののあふりうし
あふりうしこののあふりうし

たよりあつたのいふやうな人々も、
ふたつた河をさうせきし、
くくく

庚申

年長毎勞推甲子夜半初共守庚申

巳酉年終冬日少庚申夜半曉光運

あつたやうな人々も、
ふたつた河をさうせきし、
くくく

たつたやうな人々も、
ふたつた河をさうせきし、
くくく

帝王付江皇

漢高三人之劍吐制諸侯張良一巻之帛

立登師傳

頃在之舍鳴門寄情於一壺之客漢祖也

飯沛郡傷思於四方之風

四海安危懸掌内百王理乱懸心中

幸逢堯舜無為化得作義皇向上人

聖皇自在長生殿不向蓬萊王母家
仁流秋津洲之外東茂筑波山之隈
倒垂作瀨之聲寂々閑口以長為巖
之頌洋々滿耳
梁元昔遊春王之月漸落月穆新會
而母之雲敬敬
布政之庭風流未必敵於崑崙兼之者此
地也好文之代位化未必先于羨矣兼之

者我君也

榮啓期之壽三系未到常系之門
皇甫謐之述百王猶暗於王之道
王宸日臨文風見紅旗夙美益龍揚
荆鞭蒲朽螢空去疎鼓苔深多不驚
たふしんりふとくやこのもろこり
いよのまきつらこいらやこのらふ
らりたののらりるまのらりる

ら...の...の...の...

親王

庫車軟輦貴公主香袂細馬豪家郎

東平倉之雅量寧北漢皇尊不貴无双之弟

哉桂陽磔之文詞亦是齊帝寵愛弟八之

子也

江都之好勁捷也七尺屏風其峻高淮南

之求神仙也一旦乘雲而其何益

開卷已知為子道秋風悵望鼎湖

我王孝行先何到梧岫秋風一片煙

此也亦是人間種瓊樹枝頭第二也

此也亦是人間種瓊樹枝頭第二也

此也亦是人間種瓊樹枝頭第二也

此也亦是人間種瓊樹枝頭第二也

兼相 付執政

季子文子妾不衣帛魯人以為美被公孫

身服布被，汲黯譏其多詐。
 百里奚乞食，道路饑公。委以政，審咸子
 飼牛於車下。桓公任以國。
 西京席門，便是陳彙相之舊宅。南山的芝洞，
 寧亦園司徒之出柶。
 孫弘閣，閑客倦舟，忙不借人。
 傳氏巖之岿，雖瓦雲於殿，爰之後巖，凌瀨
 之水，猶涇渭於溪，聘之初。

春過夏，閑表司徒之家，雲應踏達，且南莫
 北，鄴太守之溪，夙被人知。

ふらふらあくくせりりそんけりる
 くらりるあくくりれあくあく

將軍

三尺劍光，冰有手，一張弓，誓月當心。
 雪中放馬，朝尋跡，雲外閑雁，夜射考。
 千里徃來，征馬瘦，十年離別，故人稀。

龍山雲暗李將軍之在家
潁水浪閑秦征虜之未仕
躡列虎牙維拉武勇於後
四七將學抽麟
角遂味文章於魯二十篇
雄劍在腰拔則秋霜三尺
唯黃自口吟亦
寒玉一劫
蛇驚劍氣便逃死馬
恩衣香歎隨人
けさいせあふさうりあ

あけあさやいりんこわり

刺史

士女望瀟冥月下使君金紫稱也前
精明合浦珠相似新割昆吾劍不如
雖三百孟莫強解過士不是醉鄉此一西
句可重詠北陸豈亦詩國豈

たうさむふのりりそるまのうりあ
あさのあさいさしあさり

詠史

燈暗數行塵
氏淚夜深
四面楚歌
聲
眉
廣繫
春
秋
葉
落
壯
羊
期
乳
歲
七
空
他
日
遂
逃
秦
虎
口
昔
年
初
謁
漢
龍
顏

みづさふなりふあふれこあひりん
みづさふなりふあふれこあひりん

王昭君

愁若辛勤
顛顛
又
如
今
却
似
畫
圖
中

身化早為胡
朽骨家留空
作淚荒川
翠黛紅顏
錦綵粧
泣尋
河
塞
枯
冢
齊
邊
瓦
吹
新
秋
心
緒
灑
水
流
添
夜
淚
行
胡
角
一
考
霜
後
夢
漢
宮
萬
里
月
前
腸
照
君
若
時
莫
金
賂
定
是
終
身
奉
帝
玉
身
徭
胡
塞
千
重
雪
眼
冬
巴
山
一
点
埋
數
行
暗
淚
孤
雲
外
一
點
愁
眉
落
月
邊

あ
い
し
れ
こ
ろ
あ
ふ
れ
こ
あ
ひ
り
ん
あ
ふ
れ
こ
あ
ひ
り
ん

きく人いりるたきあやたき

妓女

客白仙舅潘安仁之外姪氣調如見山雀

哇之少女

外人不識美恩処唯有羅衣深御香

嬋娟两鬢秋蟬羽翼宛將双蛾遠山色

莫怪紅巾遮面咲春風吹綻牡丹也

李延年之饒族詭一妍以始花衛子文之

待時在衆醜而永異

秋夜待月緩望出山之清光夏日思蓮初

見穿水之紅艷

筭取宮人戈色兼粧栲未下沼素添

双鬟且埋春雲軟片黛繞成曉月纖

羅袖不遑回火製風釵還悔鏤香奩

和瓦先道寸董煙出珠重紅唇透翠簾

嫌紫錦帳長董庭秀色珠簾晚着釵

歌克今日新創裏泣賣先朝舊賜筆

あまのりせきまのりあまのりあまのり

あまのりあまのりあまのりあまのり

遊女

秋水未鳴遊女佩名雲空滿望走

翠帳紅閨万事之礼汝雖異舟中波上一

生之歡念是同

傳琴緩調臨潭月唐樵高推入水壙

あまのりあまのりあまのりあまのり

あまのりあまのりあまのりあまのり

老人

昔為京洛者華客今作江湖潦倒翁

老眼早見常殘夜病力先衰不待年

再三憐汝此他事天寶遺民見漸稀

紅粟黃蕩一樹之春色秋者結綬抽簪一

身走壯心老思

少壯樂天三年猶已衰齡也遊千勝地一日冰是老幸哉

大公望之遇周文渭濱之波疊面綺里季之浦溪東高山之月垂眉

水无返夕流年浚也豈重春莫遠粧

林霧披劫寫不老岸凡論力柳猶強

醉對落蕊心自靜眠思餘等浚先紅

...

...

...

...

交友

琴詩酒友皆拋我雪月七時寂憶君

陽春曲湖高難和澗水交情老始知

昔年願我長青眼今日逢君已白頭

兼金誓之馮古朝花歸異代之交張燈射

之重親才推為忘年之友

裴文籍後嗣君久著禮部孤見我新

身シ心シ相シ知シ心シ相シ知シ心シ相シ知シ

誰シとシとシとシとシとシとシとシとシとシとシ

松シとシとシとシとシとシとシとシとシとシ

懷シ舊シ

多シ壞シ誰シ知シ我シ白シ頭シ獨シ憶シ君シ唯シ將シ老シ年シ渡シ

灑シ故シ人シ文シ

長夜君先去殘年我幾許秋風滿初渡

下故人多

往事渺茫都似夢舊遊零落半白頭

蘓州船故龍頭晴王君橋傾屋齒斜

金谷醉也之地也每春勻而主不歸

南樓翫月之人月與秋期而身何去

王守晉之昇仙後人立祠出候巖之月

三三三

羊叔傳之早世 孫客遂後於峴山之雲
役齡良木其摧歎遺妻甘棠勿剪淫

いめへの節中れ志あふりたれ
しーのうらまをーくそたじ
あやーくおにーるまーい
せゆーああーいおまーい
あたのあーいなりみまふりあ

迷憶

專結荆郢之感 激侯甘豫子之投身 心為
恩使命依義 恒

范蠡收菱白 踐柔扁舟於五湖 各犯謝罪
文公亦遂巡於河上

翫其磧 碑不窺 玉澗者 未知驪龍之所蟠
習其弊 邑不視 上邦者 未知英雄之所宿
人制禍福 愚難斷 世上風波 老不禁

車前驥病駑駘逸架上雁閑鳥雀高
夏之先成身也夫解鄉不去破何的
范蠡收菱棹扁舟而逃名
謝安辭功鞭孤雲而養志昇殿者是
象外之選也俗骨不可以踏蓬萊之
雲尚各亦天下之望也庸戈不可以
奉臺閣之月
齡亞顏駟過三代而猶沉恨同伯鸞

教五意而將去
言下生消骨大笑中偷銳刺人刀暗
哉鬼一車何足恐棹巫三峡未為危
楚三閭醒終何益周伯夷飢未必賢
かふを
このおとろん
せり
みや
かふを
このおとろん
せり
みや

花月一窓交昔
晚雲泥万里眼
今窮省躬還耻
相知久君是當
初年馬童

慶賀

劍佩曉趨双風
潮煙波夜宿一
漢舩錢塘去國
三千里一道風
花任意看想得
江南話父老因
君鞭撻子孫多
史部侍郎躬侍
中着綉初出紫
微宮銀臭腰衣
群春浪綾鶴衣
間弄曉凡

花月一窓交昔
晚雲泥万里眼
今窮省躬還耻
相知久君是當
初年馬童

祝

嘉辰今月歡无
極百歲千秋樂
未央長生殿重
春秋富不老門
前日月逢

あやうきことありてこゆゆのこころ
しるしきことありてこゆゆのこころ
ありてこゆゆのこころありて

戀

為君董衣裳君 閨蘭麝不馨香為君事容
飾君見金翠无顏色

更閑夜靜長門 閨而不開月冷
香而共絶

行宮見月傷心色夜雨閑
春風飛李也開日秋高梧桐
夕殿螢花思惜世秋燈
南翔北翥難附名温於秋雁
東出西流只

寡瞻望於曉月

空得表中也春艷法君許折一枝春

名聞獨卧无支替不好蕭郎狂馬蹄

貞女峽空唯月色窈娘堤舊獨波老

無常

觀身嶺額離根草論命江頭不繫舟

人生の世に如くもてはるるもてはるる
あふとくまかりごとあふとくまかりごと
ふゆのちほくこふゆのちほくこふゆのちほくこ
まきーとくまかりごとあふとくまかりごと
いふとくまかりごとあふとくまかりごと
あふとくまかりごとあふとくまかりごと
あふとくまかりごとあふとくまかりごと

年と歳と也相似歳と年と人不同

蝸牛角上争何复石火光中寄此身

生者必滅釋尊未免梅檀之煙樂足

哀来天人猶逢五衰之日

朝有紅顏誇世路莫為白骨朽郊原

雖觀秋月波中影未道春也夢重裏名

よの中城たるよの中城たるよの中城たる
よの中城たるよの中城たるよの中城たる

世のいよめはさかづきうらな
 せむしきあはれあはれあはれ
 てふとよしあはれあはれあはれ
 あはれあはれあはれあはれあはれ
 主人のいよめはさかづきうらな
 まらねあはれあはれあはれあはれ
 白月あはれあはれあはれあはれ
 秦皇驚歎燕丹之去日鳥頭漢帝傷美種

武之未時鶴髪
 銀河澄朗素秋天又見林園白露交
 毛寶龜飯浪底王弘使立晚也前
 芦洲月色随潮滿茶嶺雲厨与雪連
 霜鶴沙鷗皆可也唯嫌雪鬢漸皓然
 和漢朗詠集卷下終

越州蒲原郡加地之庄新發田於正法院南墻下
弘治二曆采兆執孫林鐘大暑寫之
持主春說知美之孫作



